平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名（ふりがな：とうきょうがくげいだいがくふぞくこうとうがっこう）	東 京学芸大学附属高等学校

校 長 名：新田　英雄

所 在 地：東京都世田谷区下馬4-1-5

電話番号：03-3421-5151

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	特別活動

（1）研究主題

自然の中での宿泊を伴う林間学校を体験することで，どのような力が育成されるのかを調査する研究

【研究の要点】

⑴林間学校を通して育成される力の具体的把握

・規則などを守ろうとする意識が強くなった。

・時間厳守など,集団行動を行う上で大切なことを意識するようになった

・難しい事に限界まで挑戦する気持ちや粘り強くやりとげようとする気持ちが強くなった。

・作業の分担や協力しようとする姿勢が強くなった。

・林間学校では,「男女間の協力の必要性を感じる」場面や多くの生徒が「行動計画の企画力や運営等の実行力」を育むような機会が不足している事も分かった。

⑵集団宿泊的行事の普遍的な価値に関する校内共通認識の確立

・集団生活を営むために必要である,他人と協力して物事を行う事を身に付けさせ,他人に迷惑をかけないように時間や規則等を守らせることが指導できる。

・特に,林間学校では,登山を通して体力の限界に挑戦する事で,粘り強い精神力を付けさせることができる。

・自然の中での生活体験を行うことができる。具体的には,飯盒炊爨,地域の探索,川遊びなどが体験できる。

⑶3年間を見る見通した特別活動の全体指導計画の改善。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校は，東京学芸大学に附属する全日制普通科の高等学校として，昭和29年に設立された。本校は，心身の発達に応じた普通教育を行うとともに，大学の計画に基づき，他の附属学校との連携を図りつつ，教員養成のための教育実習の実施にあたることを使命としている。「民主的で文化的な国家を建設して，世界の平和と人類の福祉に貢献しようとするわが国の理想を実現できる健康な身体と，高い知性と，ゆたかな情操とをもち，清純で気品の高い，大樹のように大きく伸びる，世界性のゆたかな，人間を育成する。」が教育方針である。

学校規模は，１学年８クラスで，３つある附属中学校出身者（214名），一般の中学校出身者（102名），および帰国生（約19名），その他タイ王国留学生数名からなり，男女同数を原則としている。和気あいあいとした中に，自由闊達な雰囲気があり，生徒は個性豊かで活動的である。全員が４年制大学を志望している。毎年，海外の大学への進学者も数名いる。

２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

（高等学校の例）

課程	学科	１年		２年		３年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	普通科	8	347	8	358	8	362	24	1067

教員数55名（55名）

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

（1）研究主題

自然の中での宿泊を伴う林間学校を体験することで，どのような力が育成されるのかを調査する研究

（2）研究主題設定の理由

(a)本校の林間学校は，昭和43年より妙高高原において，夏休み期間の４泊５日を使って行われている。その林間学校が生徒の人格形成にどのように寄与しているのかを調べながら，集団宿泊的行事

そのものの普遍的な価値,その課題等を示すことは,有効であると考える。
(b) ３年間を通した特別活動の全体指導計画を作る。それによって生徒会活動,学校行事,ホームルーム活動に,どのような役割があるのかを明確し,よりよい特別活動の在り方を考えることができると考える。

(3) 取組体制

３学年からそれぞれ１名,林間学校を直接指導する１学年および生徒指導部から各１名のワーキンググループが,資料収集・分析にあたった。さらに,ホームルーム活動年間指導計画は,各学年が作成した。

(4) ２年間の主な取組

平成21年度	4月　２年間の研究計画全体を作成し,個別の計画の実施時期を確定するとともに,役割分担を作成する。 ８月　林間学校を計画的に実施し,生徒に対するアンケート調査等を実施する。 ９月　林間学校の成果について,教員・保護者にアンケート調査を実施する。 10月　アンケート結果を集計,分析し,林間学校を通じて得られる生徒の変容から,特別活動としての意義を明確化する。 11月　本校で開催される公開研究大会において,林間学校の宿泊行事としての教育的意義を公開する。 ３月　これまでの成果を踏まえ,次年度の特別活動の全体計画を策定する。
平成22年度	４月　ホームルーム活動年間指導計画を作成し,特別活動の各活動であるホームルーム活動,生徒会活動,学校行事に関して,本校の取り組みとその指導目標を明確にした全体計画をたてる。林間学校指導計画をたてる。林間学校がどのような指導目標の中で行われているのかをまとめる。 ６月　林間学校の事前アンケートを行う。事前アンケートをもとに,指導計画を再度検討する。本校の林間学校がどのように行われているのかを調べる。卒業生等にもアンケートをとり,社会生活を営む上で林間学校がどのように影響しているかをより明確にしていく。 ９月　林間学校の事後アンケートを行う。さらに事前事後のアンケートをもとに分析する。 10月　事前事後のアンケートからも問題点をさぐり,それを解消するための方法について考えさせる。教員からみた行事と生徒からみた行事に対する意識の違い,期待する指導効果の違い,それぞれのギャップを埋める為にはどうすればよいのかを検討する。 ３月　報告書の作成。

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

＜1年目＞

(a) 林間学校を通し,生徒がどのような成長をしたと実感しているか,心身の発達,技術体力の向上の面で検証する。

＜2年目＞

(a) 林間学校を通して,心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り,集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的,実践的な態度が育まれるかを調査する。また,人間としての在り方生き方について自覚を深め,自己を生かす能力が養われたかどうかを調査する。
(b) 本校の特別活動の３年間の全体計画の作成を行い,学校教育方針に基づき,特別活動の目標等を作成する。また,生徒会活動,学校行事,ホームルーム活動の指導内容を明確化する。

(2) 具体的な取組

＜1年目＞

アンケートを実施し,以下のような結果を得た。

①心身の発達

・自然に対する理解を深められたか。

「深められた」と回答した割合

生徒：85%,教員：73%,保護者：80%

・相互の親睦と全体の秩序を大切にできたか。

「できた」と回答した割合

生徒：80%,教員：93%,保護者：82%

・調和のとれた心身の発達ができたと思うか。

「思う」と回答した割合

生徒：67%,教員：73%,保護者：68%

・個性を伸長させられたと思うか。
「思う」と回答した割合
生徒：55%,教員：41%,保護者：50%
②技術体力の向上
・自分の体力の限界に挑めたか。
「挑めた」と回答した割合
生徒：79%,教員：90%,保護者：77%
・自己を生かす能力を養えたか。
「養えた」と回答した割合
生徒：62%,教員：58%,保護者：57%

＜2年目＞

(a)林間学校の目的に照らし合わせて,教員・生徒・保護者それぞれの立場から,どのような力が育成される事を期待しているのか,さらに生徒自身が,体験によって,どのように変容したのかを調査した。

(b)林間学校が,その後の学校生活や社会生活を送る上で,どのように役立っているかを調査した。さらに,様々な教育活動の中での宿泊行事が与える有用性を考えた。

(c)林間学校を行うための指導計画をもとに,どのような活動が行われていて,どのような問題点があり,どのように克服しているかを調査した。

(d)心の準備や不安の解消,安全に対する準備状況,事前の指導がどのように行われているのかを調査する事で,生徒と保護者への協力がどのように行われているのかを調査した。ホームルーム活動を通してどのような指導がなされているかを調査した。

(e)本校の特別活動の３年間の全体計画を立て,特別活動を通して生徒の全人的な人間形成をいかに行っているかを具体化し,どのような生徒を育てているのかを明確にした。特別活動の各活動,ホームルーム活動,生徒会活動,学校行事に関して,本校の取り組みとその指導目標を明確にした。学年毎のLHR年間指導計画を立てた。学校の教育目標や学年の教育目標,重点課題を明確にし,教育目標を達成するための特別活動の全体構想を具体化した。LHRにおいての指導目標,指導計画,事後評価を行った。

調査研究の内容

①「林間学校を行う上で,先生が指導上,大切であると考えることは何ですか。」＜教師質問＞
(a)集団生活を営む経験をさせること。(76.2%)
(b)他人と協力してものごとを行うこと。(64.3%)
(c)時間や規則などを守らせること。(42.9%)
②「林間学校に行く事で,あなた自身,行く前と変化がありましたか。＜生徒質問＞
(a)規則などを守ろうとすること。(66%)
(b)時間厳守など,集団行動を行う上で大切なこと。(77%)
(c)難しい事に限界まで挑戦する気持ちや粘り強くやりとげようとする気持ち。(73%)
(d)他の人とコミュニケーションをよく取ろうとすること。(69%)
(e)困難と思えるプログラムをやり遂げる精神力。(73%)
(f)自然に対する理解や自然を大切にしなければと言う気持ち。(67%)
(g)作業の分担など,協力する姿勢。(81%)
③「林間学校の経験は,今後の学校生活や今後のあなたの生き方に,影響を与えると思いますか。」
(a)与えると思う。(75%)
(b)分からない。(22%)
(c)与えないと思う。(3%)
〈記述部分〉
・辛いときや困難を感じた時に,あきらめずにがんばり続ける事ができるようになった気がする。
・仲間同士での協力などによって,難しいこ とでも突破する事ができると思えた。
・2000メートル級の山に登る事ができ,自分に自信が持てた。また,集団生活を通じて友人の存在や協調性の大切さに改めて気が付く事ができた。
・寮での生活から,規則や時間を守ったり分担す

ることは,今後の生活（文化祭の準備）とかに役立つと思う。

④卒業生のアンケート

卒業生は,高校時代に林間学校を経験して,今それをどのように考え,それが自分の中で,どのように役立っているのかを調査した。

「林間学校の体験が,今のあなたの生き方に,どのような影響を与えていると思いますか。」

・集団で山登りをするという経験は,初めてだったので,他の人と共に大きな目標を達成することの大切さを学ぶ事ができた。
・苦しい事を乗り越えた先には,すばらしいものが見える事を知った。

「高校時代に,あのような林間学校を経験することについて,どのようにお考えですか。」

・山登りは,大変だけど,高一のあの時期にやることは,友人との仲が深まり,集団生活の大切さ等が身に付くので,１つの重要な行事ではないかと思います。
・体力をつける以外にも,つらい事を乗り越える経験をすることは,大切だと思う。

(3) 考察及び成果と課題

＜1年目＞

自然に対する理解を深めつつ行事に挑戦できたことが伺えるが,課題として,個性の伸長と自己を生かす能力の涵養に於いて達成度が低いため,作業の分担,荒天時の行事計画,施設面の整備などを通じ,各自が成長できる計画を立てる必要性を感じる。また,生徒・教員・保護者の間で,認識にズレがある部分も把握できた。

＜2年目＞

①成果としては,林間学校を体験することによって,協力して何かを行おうとする姿勢が強くなったこと,限界にまで挑戦する気持ちが強くなったこと,集団生活を行う上での基本を身に付けようとする態度の育成は図られたと言える。課題として,運営等の実行力を付けさせるような活動が足りないことなどから,林間学校の目的と,具体的な活動計画の見直しの必要性も分かった。そのため,どのような活動を通して,成長が実感できるのかを調査する必要性のあることも分かった。

②集団宿泊的行事のそのものの価値として次が分かった。

・集団生活を営むための基本である,「他人と協力して物事を行うこと」,「他人に迷惑をかけないために時間や規則等を守らせること」を様々な体験を通して学びかつ育むことができる。

また,林間学校の活動を維持していくための課題として,次のことが分かった。

・登山での生徒の安全確保の対応が充分に必要であること。
・林間学校は,天候に左右される行事であることから,雨天の場合の計画が必要であること。
・引率者の体力的な問題や経験の継続が必要であること。

③これまで,特別活動の全体計画は,それぞれの行事や目的に関連性を意識していなかったが,それがより明確にすることができた。今後は,系統だった指導に生かせる全体計画の作成を目指す。ホームルーム活動の企画立案と年間の予定は,教師と生徒との共同作業である事が望ましく,生徒会,委員会との連携も密にする必要がある事が分かった。またクラスでの問題や学校全体での共通の問題等を考える時間を確保する必要がある事も分かった。

３　研究の成果と課題

この研究から,集団宿泊的行事である林間学校を体験することで,他人に迷惑をかけないために時間や規則等を守ろうとする意識を強め,他人と協力して物事を行う等の態度を育成する事に意義がある事が分かった。これらは,集団生活を営む上での基本であり,学校生活においても,様々な場面で,生かされることがあるであろう。さらに,現

在の高校生に欠けている,「自分の意思で高い目標を設定し失敗を繰り返しながらも乗り越えられた経験」,「自分から進んで,人の為に何かを行う事」,「他の人と協力して,何かを成し遂げる事」などは,様々な体験を通して限界に挑戦してこそ鍛えられるものであろうが,普段の学校生活の中ではなかなか体験できない。林間学校とくに登山という体験を通して得られるものである。また,壮大な自然に自分自身をさらけ出し,自分の内面との対話と自然への畏怖が感じられたなら,たいへん素晴らしい事である。

現代の便利で恵まれた環境に育った高校生にとって,家庭を離れて宿泊行事を伴う集団生活を数日でも行う事は,ぜひとも取り入れたい教育活動と言える。さらに,林間学校では,登山の体験,飯盒炊飯,地域の散策など,都会では経験できない自然の中での生活体験ができる。難しいことに限界まで挑戦する気持ちや粘り強くやり遂げようとする気持ちが強くなったのは,登山を通しての体験である。また,自然に対する理解や自然を大切にしなければと思う気持ちが強くなったのも林間学校のおかげであり,人格の形成過程における,「学校内外における自然体験活動を促し,生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと」に特別活動の中での林間学校の果たす役割は大きい。

ただし,林間学校の体験だけでそれらの力が育成されるわけではない。学校生活の中で,それらの経験が思い出されて始めて,生徒の中に陶冶されていくものであろう。その関連が今回の調査で,明確にできなかった部分でもある。あるいは生徒や保護者の不安の解消など,よりきめの細かい調査も必要であった。さらに林間学校を行っていない学校の様子や,なぜ行わないのかの調査はできなかった。本校でも林間学校の維持については,苦労している。

林間学校後のホームルーム活動での気づいたことを振り返ったり,まとめたり,発表しあったりの活動が足りないことも分った。現地での最終日での反省会を行い,それをまとめたものを作成しているが,発表したりそれを生かして活動振り返ったりする事はしていなかった。貴重な体験をそのまま,埋もれさせる結果であった。今後は,充分な振り返りと共に,教員間でも事後において,充分な検討する事が必要であることが分った。

また,わずかではあるが集団生活が苦手と感じている生徒がいる事が分かった。その生徒がどのように感じたのか,あるいは不安の解消など,よりきめの細かい調査も必要であった。年々集団生活に困難を感じている生徒の増加を意識しているが,林間学校でそのような生徒が,顕在化してくることも今後多くなるであろう。

特別活動の全体指導計画は,最終ページに掲載した。生徒会行事,学校行事,ホームルーム活動それぞれの目標や指導方針を立て,指導内容を明確化し,それぞれの行事や目的に関連性を意識できるような形を目指した。ただし,学習指導要領にある,「[学校行事]については,入学から卒業までを見通して,行事間の関連や統合を図るなど精選して実施すること。」に関しては,不十分であった。本校では多くの行事があり,それぞれが必要な行事として目的もはっきりしており,長い伝統がある。また,生徒会行事といわれるものの中には,教員の指導のもと,生徒の委員会組織で企画運営されているものもあり,生徒主催の意識が強く,毎年評価・改善が行われており完成度も高い。これ自体は誇れる事であり,特別活動の目的に十分沿ったものである。ただし,学校生活全体を通して考えた場合,教員間でも生徒と教員間でも意識のギャップのあるものもある。

1月27日の発表後の討論の場で,行事の精選についての熟議を行った。そこでは、「目的と評価基準をはっきりし,学校全体で考えた時の生徒・教員の評価をきっちり行う」「検討委員会などでなぜ精選を必要とするのか,何が障害になっているのかを明確にする事」を学んだ。教育効果と生徒の意向の２種類の評価に今後も悩まされる場合もあるが,非常に参考になる議論であった。

平成22年度　　特別活動全体計画

学校教育方針
民主的で文化的な国家を建設して，世界の平和と人類の福祉に貢献しようとするわが国の理想を実現できる健康な身体と，高い知性と，ゆたかな情操とをもち，清純で気品の高い，大樹のように大きく伸びる，世界性のゆたかな，人間を育成する。

各教科
各教科における主体的な学習活動の充実を図る。自分で考え，調べ，それを表現することを日常的に行う。

特別活動の目標
本校の教育方針に基づき，生徒の自主性・自治性を高め，生徒相互の理解と信頼を深くし，教養や協調性を高め，心豊かに将来を生きていくための姿勢を見に付けさせる。

総合的な学習の時間
様々な体験や学習を通して，生徒が主体的に物事に取り組む態度を養う。さらに，テーマを設定し，十分な事前調査と現地での調査をもとに各人が成果をまとめる。

特別活動の本年度の目標
集団活動を通して自己の理解と他者を尊重する。
よりよい個性の伸長を図るとともに目標に向って不断の努力を行う。

生徒指導
３つの教育方針に則り，「気品」「自主性」「世界性」を強調した指導を行う。

その他の活動
ホームルームを基本としたの週番活動
図書部，進路部，総務部の学校説明会

学年の特別活動の重点目標
1学年　智：謙虚に智を得る。尊：自己と他者を尊ぶ。足：自分の足を使う。
2学年　自立と責任：中心学年として学校を支えるためにも，各自が自立し，積極的に貢献できるよう努める。
3学年　気品を保ち，自らが負うべき責任に真摯に向き合う。自ら学ぶ姿勢を保ち，総合的学力を獲得する。自覚を持ち自らを律し行動する。

	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事
目標	ホームルーム活動を通して，集団の中での自己の在り方を考え，集団としての活動に貢献する態度を育成する。級友相互の親睦を深め，互いの資質・教養を高め，直面する様々な問題を自ら進んで解決して行こうとする意欲や態度を育成する。さらに，進路情報の自主的な活用や主体的な３年次の科目選択が行えるように活動を促進する。	生徒会活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりより学校生活づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育てる。目的達成のため，生徒総会，ホームルーム委員会（HR委員会），事務局，各種常任委員会，クラブ協議会等の機関をおき，円滑な運営に努める。	学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，公共の精神を養い，協力してよりより学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。特に，総合的体験的な活動を通して創造性を高めるとともに，学校生活にリズムと活力を与える。自発的なかかわりの中での生徒相互の力の結集により，これまで培ってきた伝統の維持を図る。様々な形態の集団の中での自己の在り方を考える過程で，社会性を身に付ける。
指導方針	ホームルームを単位として，ホームルームや学校の生活の充実と向上，生徒が当面する諸問題への対応に資する活動を行うこと。	学校の全生徒で行われる生徒総会，ホームルーム委員会，各種委員会を中心に，学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。	全校又は学年を単位として，学校生活に秩序と変化を与え，学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。
全体的内容	(1)ホームルームや学校の生活づくり a ホームルームや学校の諸問題の解決 b ホームルーム内の組織づくりや仕事の分担処理 c ホームルーム内外の美化活動 d ホームルームの団結 (2)適応と成長及び健康安全 a 自己及び他者の個性の理解と尊重 b 社会の一員としての自覚と責任 c 望ましい人間関係の確立 (3)学業と進路 a 学ぶことと働くことの意義の理解 b 自主的な学習態度の形成と図書館の利用 c 進路情報の吟味と進路情報の活用 d 主体的な進路選択と将来設計 〈生徒組織〉 ○ホームルーム ○委員会 アルバム委員会・旅行委員会 総合的学習委員会	(1) 生徒会の計画や運営 事務局 (2) 異年齢集団による交流 体育祭の縦割りの組，部活動 (3) 生徒の諸活動についての連絡調整 事務局，各常任委員会 (4) 学校行事の運営 辛夷祭委員会，体育祭委員会，下馬祭委員会 (5) ボランティアへの参加 筑波大学附属視覚特別支援学校との交流会 〈生徒組織〉 ○生徒総会 ○事務局・ホームルーム委員会 ○常任委員会 放送・辛夷祭・体育祭・辛夷編集・図書 保健・美化・下馬祭 ○クラブ協議会 文化系クラブ・運動系クラブ・同好会	(1) 儀式的行事 始業式・入学式・離任式・終業式・卒業式 離任式・対面式 (2) 文化的行事 辛夷祭・合唱祭，講演会・新入生歓迎会 (3) 健康安全・体育的行事 体育祭・健康診断・避難訓練・新体力テスト 球技大会・マラソン記録会 (4) 旅行・集団宿泊的行事 林間学校・学習旅行・合宿・遠足 (5) 勤労生産・奉仕的行事 大掃除・地域の清掃 (6)その他の学校行事 地理実習，野外実習，古典劇鑑賞，現代劇鑑賞 〈生徒組織〉 ○ホームルーム ○委員会 辛夷祭委員会・体育祭委員会 下馬祭委員会
補足	○生徒会学校行事と連携し，３年間の指導計画を立てる。 ○進路講演会は，進路部と連携して行う。 ○各学年年間35単位時間とし，毎週実施する。	○主に生徒指導部や保健部の教員が顧問となり，指導する。 ○部活動の顧問は，全教員が分担して指導する。 ○生徒総会は，年１回行う。 ○ホームルーム委員会は毎週１回定例に行う。	○全校または学年を単位とし，全教員が分担して計画実施指導を行う。 ○辛夷祭・体育祭・下馬祭は，主に学級単位で行い， ○それぞれ委員会が自主的に計画し，実施される。